前期日程

令和六年度個別学力試験問題

国　語

（教育学部）

解答時間　八〇分
配　点　一五〇点

注意事項

一、解答開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
二、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入してください。
三、解答は解答用紙の指定された解答欄に記入してください。
四、問題冊子及び解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁及び汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
五、問題冊子は持ち帰ってください。

1

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人類は、いまや、一つのイデオロギー、一つの宗教、一つの文化を絶対化することによって、全体を秩序づけることが歴史的現実として不可能な時代に入った。それが全体主義の破産の意味である。この現実を背負って、あるべき社会の構造を考えたのが、ジョン・ロールズ（一九二一～二〇〇二）である。

では、この文化の多元的状況に直面して、私たちはどのような社会を構築しなければならないか。これが、ロールズの正義論の課題である。異なる民族、異なる習俗、異なる宗教、異なる文化は、それぞれ自己に固有の善の観念あるいは価値の観念をもっている。それを他者に強制的に押しつけて他者を自分に同化しようと試みることによっては、平和な世界が実現されるはずがない。それゆえ、この意味での善の観念は「あるべき社会」の土台になりえないのである。人々はそれぞれに自分に固有の生き方を大切にしなければならないが、それは各人の主観の領域のことがらであって、他者に要請すべき普遍的なことがらではない。そうなると、異なる民族、習俗、宗教、文化が平和裡（り）に共存しうるためには、それらのすべてに共通な原理をもとめなければならないが、それが正義なのである。正義という土俵の上であらゆる文化や宗教が繚乱（りょう）と花開くのである。

だが、A正義とはなにか。その内容が問題だ。それは、一言で言えば、「人間は自由で平等であるべきだ」という要請あるいは命法あるいは掟（おきて）である。この命法だけがあらゆる文化や宗教に共通の普遍的な原理であり、この原理を失えばいかなる文化も宗教もその存立を許されないような人間の究極の存在原理である、というのがロールズの根本思想にほかならない。それゆえ、この原理にもとづいた社会を構築することが、正義論もしくは政治哲学の課題なのである。

では、「人間は自由で平等であるべきだ」という命法にはいかなる根拠があるのか。ロールズは、これは人類が何千年にわたる血と涙の経験から獲得した直覚的な倫理的規範であって、この直覚が究極根拠であると言い、これを「重なりあう同意」と命名している。

もちろん、さまざまな宗教や哲学がこの倫理的規範にさまざまな理論的根拠を提供することはありうるだろう。それがそれぞれの人々に説得力をもつならば、それはそれでよいだろう。しかし、もしもその根拠づけがすべての人々に対して普遍性を要求するならば、そこで人々はふたたび分裂してしまうのである。ロールズが理論的根拠づけを放棄したのはこのゆえであった。

ロールズの正義論はきわめて簡単な二つの原理から成立している。すなわち第一が自由の原理であり、第二が配分の原理である。

そこでまず、第一原理からその内容を見てみよう。自由の原理とは、まず基本的人権の確保である。すなわち、思想・信仰の自由、言論・出版の自由、集会・結社の自由、居住・移動の自由、国籍変更の自由などがこれにあたる。この原理は他者の自由を侵害しないかぎり、最大限に守られなけれ

ばならない。これが第一の原理と言われるゆえんは、正しい国家においては、何をおいてもこの原理の確保を優先しなければならない、という意味である。たとえば、経済的配慮のために人々の自由を制限するというようなことは許されない。だが、なぜ基本的人権がそれほど大切なのか。それは、人権とは人間が生きるための根本条件であるからだ。人間が生きるとは自己を実現することであり、それが自由ということにほかならない。アリストテレスは「幸福とはアレテー(優れた能力)に即した魂の活動である」と言ったが、これが現在常識となった「自己実現が幸福である」という思想の原型であり、ロールズもまた、この思想を生のすべての意味づけの究極根拠として受容しているのである。

ところで、人間は理性的動物であるから、自己実現とは理性的な自己の実現でなければならない。すなわち、人は、先ず、個人としては、自分が人生で何をしたいのか、その目的を立て、それを実現するための理性的な設計図を描き、それを現実化するための倫理能力をもたなければならない。これは、一言で言えば、自分自身の善の観念をもつということだ。これは重いことである。善の選択と決断、すなわち人生の意味づけが、各人の主観にゆだねられているということが、自由の根本の意味なのである。第二に、人は、自分がその中で生きている国家社会の構造を認識し、それを正しい社会にするべく力を致すための倫理能力をもたねばならない。これが、公共的理性を分有するということである。人間の自由とはこの二つのことに収斂(れん)し、それを可能にするために基本的人権が存在するのである。

では、B平等とはなにか。平等とは人々が容姿、才能、財産、地位において等しいという意味ではない。そんなことはありえない。そうではなくて、平等とは、人が自由であることにおいて等しい、という意味なのである。すなわち、自由とは、各人が自分自身の善の観念をもち、また公共的理性を分有することによって成立するのであるから、このことをすべての人に確保することが、平等の実現ということなのである。

こうして、正しい社会は各人が自由に活動し、自分の選んだ目的を追求し、それを実現しうる社会でなければならないが、そうすると、人間には生まれつき能力差があるから、教育や職業選択の機会を万人に均等に開放していても、必然的に職業や財産において格差が生まれてくる。しかし、このことを避けるために、人間の自由に制限を加えてはならない。C これが自由の原理が第一原理であるということの意味である。

社会主義社会の挫折から明らかなように、人間の自由を制限すれば、人々は活動への意欲を失い、社会は全体として疲弊(ア)する。それでは、どうすればよいか。ロールズの配分の原理とはこの問題への対処である。すなわち、人々の自由な活動は社会的弱者の利益になるという条件の下においてのみ、その存立を許容される、というのがこの原理の内容である。自由競争社会において、大きな能力によって大きな成果をあげた者は、個人であろうと国家であろうと、乏しい能力のために成果をあげえなかった弱者に、その富を奉呈(イ)しなければならない、という思想である。それは、ルイシン(ウ)課税とか、さまざまな社会福祉政策とか、発展途上国への無償の経済援助とか技術援助とか教育援助とか、さまざまなボランティア活動とか、いろいろな形でおこなわれうるだろう。

このような考え方の根拠としてロールズがあげる理由は、能力は個人のものではなく社会の共有財産であるという思想である。なぜ、そう考えるか。なぜなら、能力は偶然に与えられたものだからである。自分はたまたま優れた能力をもっているが、乏しい能力の所有者であったとしても少しも不思議はない。自分はたまたま日本人であり、たまたま女であり、たまたま健康であったが、すべてそれ以外であったとしても少しもおかしくはない。それゆえ、能力を私する理由はないのである。D この考え方のうちにロールズ哲学の核心がある。

（出典：岩田靖夫、『ヨーロッパ思想入門』、岩波書店、二〇〇三年より一部改変）

問一　傍線部ア～ウのカタカナの語は漢字に、漢字の語は読み仮名に、それぞれ直しなさい。

問二　傍線部A「正義とはなにか」とあるが、この問いに次のような形で答えるとき、空欄を本文中の言葉（一四字、句読点を含む）で埋めなさい。

「（　　）」という命法。

問三　傍線部B「平等とはなにか」とあるが、この問いに次のような形で答えるとき、空欄を本文中の言葉（七字、句読点を含む）で埋めなさい。

人が（　　）において等しい、という意味。

問四　傍線部C「これ」とあるが、その指示内容を次のような形で答えるとき、空欄を本文中の言葉（一七字、句読点を含む）で埋めなさい。

自由競争社会では生得の能力差のために必然的に格差が生じるが、それを避けるために（　　）ということ。

問五　傍線部D「この考え方」とあるが、その内容を本文中の言葉を用いながら四〇字程度（句読点を含む）で答えなさい。

次のページにも問題があります。

2

次の文章（本文一・二・三）を読んで、あとの問いに答えなさい。

本文一　日本の教育に求められる対話型論証

二〇一九年九月二三日、ニューヨークで開催された国連気候行動サミットに、スウェーデンの一六歳グレタ・トゥーンベリ（Greta E.Thunberg）が登壇した。グレタは二〇一八年八月、学校を休んで気候変動への対応を大人たちに迫る「学校ストライキ」を始めた。スウェーデンの議会前でたった一人で始めた座り込みのストは若者を中心に大きなうねりとなり、二〇一九年九月の世界一斉デモには一八五カ国で七六〇万人以上が参加したとされる。「文化面での世代間シフトを象徴する人物」という理由で、米タイム誌の「今年の人」にも、史上最年少で選ばれた。

グレタのスピーチは、一六歳のコガラな少女が、世界のリーダーたちの前で決然と、怒りに声を震わせながら、気候変動対策にすぐさま取り組むべきことを訴えた。その振る舞いによって、多くの人々の心を動かした。だが、ここではその内容の方に注目したい。グレタのスピーチは対話型論証の見事な一例である。

スピーチはいきなり「すべてが間違っています」で始まるが、[1]背後にある〈問い〉は、「［　A　］」である。[2]彼女が批判の対象としている〈対立意見〉は、「［　B　］」という意見であり、一方、[3]彼女自身の〈主張〉は「［　C　］」ということである。彼女のスピーチの大半は、自分の主張を正当化し、対立意見に反駁（はんばく）するための科学的な〈事実・データ〉とそれを解釈するための〈論拠〉によって構成されている。そして、この主張と対立意見の根底には、若者世代と大人世代（とくに世界のリーダー層）、生存（生き続けられること）と経済成長という対立の構図がある。

誰もがグレタのようにスピーチできるわけではない。しかし、彼女のスピーチを聞いて、内容を理解したり、（賛成であれ反対であれ）自分の意見をもったりすることは、高校生であればできるようになってほしいものである。

本文二　対話型論証とそのモデル

対話型論証は、あらゆる教科や総合学習などの中で、またあらゆる学校段階で行われる。もっといえば、学校外の日常生活の中でも、学校を卒業した後の社会の中でも行われているごくありふれた活動である。だが、それを意識的に、見事に使いこなしている人は大人でもそう多くない。私は、教科・分野の特質に根ざしつつ、教科・分野の枠を越え、さらには学校と社会をつなぎながら能力を育んでいく上で、対話型論証が一つのカギになると考えている。

対話型論証は図のようなモデルで描くことができる。（中略）

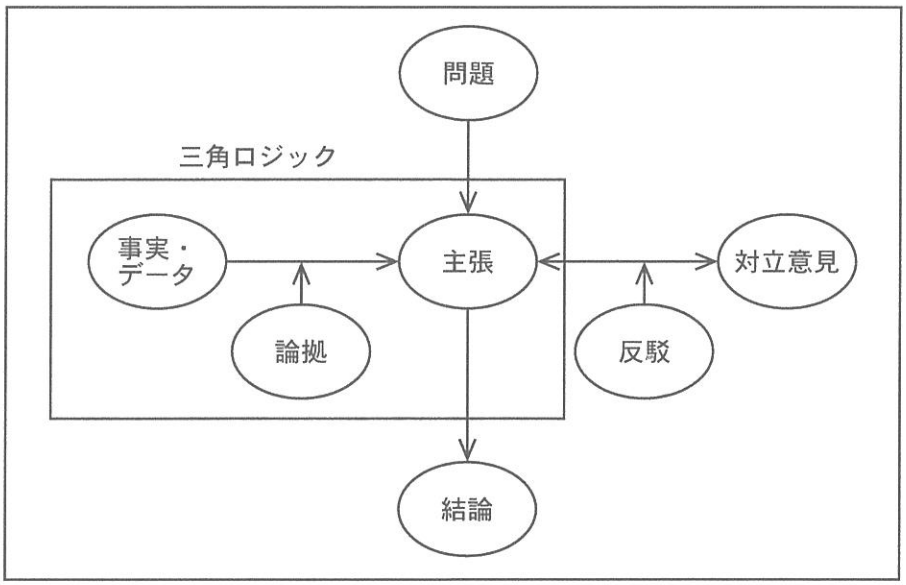

図　対話型論証モデル

対話型論証モデルは次のような構成要素からなる。

①問題
ある対象や状況についての問題意識やその背景。そこから設定した問題。

②主張
問題に対する特定の考え。

事実・データと論拠によって支持され、対立意見への反駁によって強化される。

③事実・データ
主張を支える具体的な材料。

④論拠
事実・データを解釈し、主張に結びつける土台となる理由。

⑤対立意見
設定した問題に対する自分とは対立する（少なくとも、異なる）意見。

対立意見にも、それを支える事実・データや論拠がある。

⑥反駁
対立意見に対し、自分の主張を擁護するための反論。

⑦結論
複数の主張を統合して得られる結論。設定した問題に対する答え。

本文三　グレタ・トゥーンベリのスピーチ（国連気候行動サミット、二〇一九年九月二三日、松下佳代訳）

すべてが間違っています。本来なら私は海の向こう側で、学校にいるべきなのです。それなのに、あなたたちは私たちの元に来ている。若者に希望を見出そうとして。よくそんなことができますね。[4]あなたたちは実体のない言葉で、私の夢を、私の子ども時代を奪ったのです。それでも、私は幸運な人間の一人です。人々は苦しんでいます。人々は死にかけています。生態系全体が崩壊しつつあります。私たちは、まさに大量絶滅の始まりにさし

かかっているのです。なのに、あなたたちが語り合うのは、お金や、途絶えることのない経済成長のおとぎ話だけ。よくそんなことができますね。

三〇年以上前から、科学がもたらす答えはとても明確でした。見て見ぬふりをし続け、よくも「十分やっている」と言えますね。必要とされる政策や解決策のめどすら立っていないのに。

あなたたちは言います。私たちの声は「聞こえている」、緊急性を理解していると。しかし、どんなに悲しくても、怒っていても、私はそれを信じたくはないのです。もしあなたたちが本当に事態を把握していながら行動に移さないのだとすれば、それは悪でしかないからです。だから、私は信じません。

今後一〇年で(温室効果ガスの)放出を半分に減らす案がありますが、それでも気温が一・五度下がる可能性は五〇%しかありません。人間の手の中にはおさまらないような、決して後戻りのできない連鎖反応が起こるリスクがあります。

あなたたちにとって、五〇%という数字は受け入れられるものなのかもしれません。しかしこの数字には含まれていないことがあります。ティッピング・ポイント[=気候変動が急激に進む転換点]や、フィードバック・ループ[=変化が変化を呼び相乗効果を生む現象]、有害大気汚染に隠されたさらなる温暖化、気候正義や気候の公平性[=化石燃料の大量消費によって気候変動を引き起こした先進国やこれまでの世代が、自らの責任として地球温暖化対策に取り組むことで、化石燃料をあまり使ってこなかった途上国や将来世代が気候変動によって受ける被害を食い止めることを求める考え方]の問題についてなどです。加えてこの数字は、私たちや私たちの子どもの世代が、何千億トンもの二酸化炭素を空気中から吸収してくれるだろうという予測に頼っています。その技術は存在すらしていません。こうなると、五〇%という数字は、私たちにとっては受け入れがたいものになります。その結果と生きていくのは、私たちなのですから。

ＩＰＣＣ(気候変動に関する政府間パネル)が出した最高値を見ても、地球全体の気温上昇を一・五度以内に抑えられる可能性は六七%です。とすると、二〇一八年一月一日に遡(イ)っても、世界が放出できる二酸化炭素量はあと四二〇ギガトンです。今日ではその値があと三五〇ギガトンまで減っています。それなのによく、この問題が解決できるかのようなふりができますね。変わりばえのしないやり方で、技術に頼って。今の放出レベルでは、八年半以内に二酸化炭素のキョヨウ(ウ)放出量を超えてしまいます。

この値にそった解決策や計画は、未だ提示されていません。なぜなら、この値はあなたたちにとって不都合すぎるからです。あなたたちは、未熟なために現状をありのままには伝えられないのです。

あなたたちは、私たちを失望させています。しかし、若者たちはその裏切りに気づきつつあります。未来の世代の目はすべて、あなたたちに向けられているのです。それでもなお私たちを裏切る選択をするのであれば、言わせてください。「私たちは決してあなたたちを許しません」。今、ここで、

線を引きます。世界は目を覚まし始めています。変化も訪れ始めています。たとえあなたたちが気に入ろうと、気に入るまいと。

（出典：松下佳代、『対話型論証による学びのデザイン　学校で身につけてほしいたった一つのこと』、勁草書房、二〇二一年より抜粋・一部改変）

問一　傍線部ア～ウのカタカナの語は漢字に、漢字の語は読み仮名に、それぞれ直しなさい。

問二　本文一の［　A　］には、傍線部1「背後にある〈問い〉」の具体的な内容が入る。本文二と本文三を参考にして、簡潔に書きなさい。

問三　本文一の［　B　］には、傍線部2「彼女が批判の対象としている〈対立意見〉」の具体的な内容が入る。本文二と本文三を参考にして、簡潔に書きなさい。なお、その際、「温室効果ガス」、「気温上昇」、「確率」の言葉を含めること。

問四　本文一の［　C　］には、傍線部3「彼女自身の〈主張〉」の具体的な内容が入る。本文二と本文三を参考にして、簡潔に書きなさい。

問五　本文三の傍線部4「あなたたち」とは誰のことだと考えられるか、本文一の言葉を使って、三〇字以内で書きなさい（句読点を含む）。

3

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

その春、世の中いみじう騒がしうて、[注1]松里[注2]の渡りの月かげあはれに見し乳母も、三月ついたちに亡くなりぬ。せむかたなく思ひ嘆くに、物語のゆか(ア)しさもおぼえずなりぬ。いみじく泣きくらして見いだしたれば、夕日のいとはなやかにさしたるに、桜の花のこりなく散りみだる。

散る花もまた来む春は見もやせむ(1)やがて別れし人ぞこひしき

また聞けば、[注3]侍従の大納言の御むすめ亡くなりたまひぬなり。[注4]殿の中将のおぼし嘆くなるさま、わがものの悲しきをりなれば、いみじくあはれなりと聞く。[注5]上り着きたりし時、「これ手本にせよ」とて、この姫君の御手をとらせたりしを、「[注6]さよふけてねざめざりせば」など書きて、「鳥辺山たにに煙のもえ立たばはかなく見えしわれと知らなむ」と、いひ知らずをかしげに、めでたく書きたまへるを見て、いとど涙を添へまさる。(中略)

[注7]花の咲き散るをりごとに、乳母亡くなりしをりぞかし、とのみあはれなるに、同じをり亡くなりたまひし侍従の大納言の御むすめの手を(2)見つつ、すずろにあはれなるに、五月ばかり、夜ふくるまで物語をよみて起きゐたれば、来つらむ方も見えぬに、猫のいと[注8]なごう鳴いたるを、おどろきて見れば、いみじうをかしげなる猫あり。いづくより来つる猫ぞと見るに、姉なる人、「あなかま、人に聞かすな。いとをかしげなる猫なり。飼はむ」とあるに、いみじう人なれつつ、かたはらにうち臥したり。尋ぬる人やあると、これを隠して飼ふに、すべて下衆のあたりにも寄らず、つと前にのみありて、物もきたなげなるは、ほかざまに顔をむけて食はず。姉おととの中につとまとはれて、をかしがりらうたがるほどに、姉のなやむことあるに、もの騒がしくて、この猫を北面にのみあらせて呼ばねば、かしがましく鳴きののしれども、なほさるにてこそはと思ひてあるに、わづらふ姉おどろきて、「いづら、猫は。こち率て来」(3)とあるを、「など」と問へば、「夢にこの猫のかたはらに来て、『おのれは侍従の大納言殿の御むすめの、かくなりたるなり。さるべき縁のいささかありて、この中[注9]の君のすずろにあはれと思ひ出でたまへば、ただしばしここにあるを、このごろ下衆の中にありて、いみじうわびしきこと』といひて、いみじう泣くさまは、あてにをかしげなる人と見えて、うちおどろきたれば(イ)、この猫の声にてありつるが、いみじくあはれなるなり」と語りたまふを聞くに、いみじくあはれなり。その後はこの猫を北面にも出ださず思ひかしづく(ウ)。ただ一人ゐたる所に、この猫がむかひゐたれば、かいなでつつ、「侍従の大納言の姫君のおはするな。大納言殿に知らせたてまつらばや」といひかくれば、顔をうちまもりつつなごう鳴くも、心のなし、目のうちつけに、例の猫にはあらず、聞き知り顔にあはれなり。

(『更級日記』による)

注1　その春……治安元（一〇二一）年春。そのころ疫病が大流行したため、朝廷をはじめ寺社でさかんに祈祷が行われた。
注2　松里……地名。前年の秋、作者が上京するにあたって、乳母と最後に会った場所。
注3　侍従の大納言……藤原行成。能書家として有名。娘は寛仁元（一〇一七）年一二歳で、関白道長の息子である長家と結婚している。
注4　殿の中将……関白道長の息子、藤原長家。この時は、近衛中将だった。
注5　上り着きたりし時……作者が京に着いたのは、前年一二月のこと。
注6　さよふけて……『拾遺集』夏部、壬生忠見の歌「小夜ふけてねざめざりせば時鳥人づてにこそ聞くべかりけれ」の上の句の一部。また「鳥辺山～」の歌は、『拾遺集』哀傷部、詠み人知らずの歌。鳥辺山は当時の火葬場。
注7　花の咲き散るをり……これは翌年の春の記事。
注8　なごう……「なご(和)く」の音便。のどやかにの意。
注9　中の君……作者のこと。

問一　傍線部ア～ウを現代語に訳しなさい。

問二　傍線部1「やがて別れし人」とは誰のことを指すか。本文中の言葉で書きなさい。

問三　傍線部2「手」が指し示している内容を、本文中から、一二字と二七字とで抜き出しなさい。

問四　傍線部3「率て来」の読みを歴史的仮名遣いで書きなさい。また姉が「率て来」と言った理由を、説明しなさい。